

保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
 - (イ)使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
 - (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
 - (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛りなどによる故障及び損傷
- (ニ)消耗または摩耗した部品、付属品の交換
- (ホ)本書のご提示がない場合
- (ヘ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売店シールや領収書でも未記入項目の代用となります。)
- (ト)本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
- (チ)一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	モノラルラジオカセットレコーダー			★お買い上げ日：	年	月	日
型番	RCS-531Z	品番	03-5010	保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)			
お客様	ふりがな						
	★お名前 様						
	★ご住所 〒 ー						
電話 ()							

修理メモ

販売店	★住所 店名 電話						
	(印)						

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。

※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
 〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<https://www.ohm-electric.co.jp>

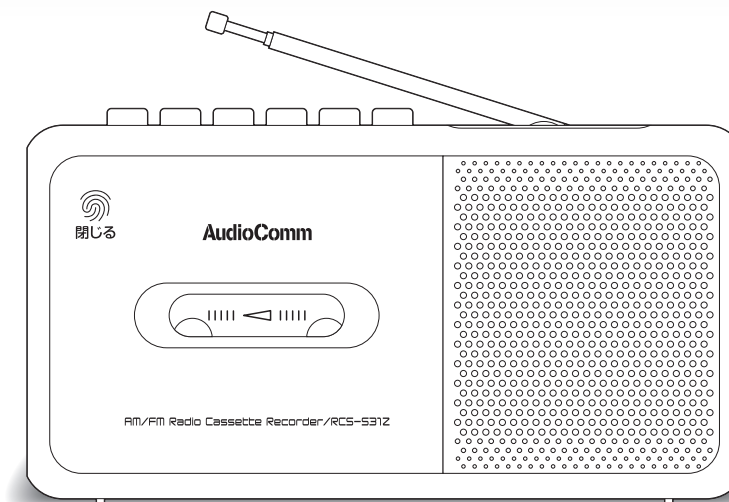
製品に関するお問い合わせは お客様相談室へ	
●通話料無料	●携帯・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735	
電話受付	平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます
修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ	
電話受付	048-992-3970 平日 9:00~17:00 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

AudioComm®

保証書付 取扱説明書

モノラルラジオカセットレコーダー

型番：RCS-531Z 品番：03-5010



このたびは、AudioComm®モノラルラジオカセットレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機の機能を十分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますように大切に保管してください。

目次

免責事項	1
著作権について	1
安全上のご注意	2~4
電源について	5
ご使用になる前に（カセットテープについて）	5~6
各部の名称	7
ラジオを聴く	8
カセットテープを聴く	9
カセットテープに録音する	10~11
録音マイク（内蔵）を使って録音する場合	10
ラジオ放送を録音する場合	11
イヤホンの使いかた	12
お手入れのしかた	12
故障かなと思ったら	13
主な仕様	14
保証書とアフターサービスについて	14
保証書	裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

著作権について

放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、重傷などを負う可能性が想定される内容です。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 左図の場合は「感電注意」が描かれています。
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 左図の場合は「分解禁止」が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。 左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

警告

	万一、煙が出ていて、変なおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。		本機を分解、修理、改造しない ●火災・感電の原因となります。
	万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。		電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続する ●手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。 ●本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。異常が生じたときには、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
	雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない		浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しない ●火災や感電の危険があります。
	電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。修理をご依頼ください。		乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が誤って飲み込むことがないようにする ●万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。

安全上のご注意(つづき)

⚠ 警告

 禁止	本機や電源コードの上に重いものをのせたり、コードの上に本機をのせない ●コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。	 禁止	表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない ●火災・感電の原因となります。
	電源コードを敷物などで覆わない ●気づかず重いものをのせてしまい、火災・感電の原因となります。		本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるようなものを置かない ●火災の原因となります。
	本製品を使用時は必ず付属の電源コードを使う。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しない ●付属の電源コードは本製品専用です。 ●製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となります。		狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、テーブルクロスやカーテンなどをかけて通気口をふさがない ●過熱して火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●コードが破損して火災・感電の原因となります。		海外では使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災の原因となります。 ●この機器を使えるのは日本国内のみです。

⚠ 注意

 ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電の原因となることがあります。	 コンセントから抜く	お手入れの際や移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
 音量に注意	電源を入れる前には、音量を最小にする ●突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。	 清掃する	旅行などで長期間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す ●火災・液もれの原因となることがあります。
 イヤホン使用時は音量を上げすぎない ●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。			
 指を挟まれないように注意	お子様がカセットドア内に手を入れないように注意する ●けがの原因となることがあります。	 アンテナをたたむ	電源プラグとコンセントの接続部を定期的に清掃する ●電源プラグとコンセントの間にほこりがたまると、自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的にほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
 乾電池に注意	乾電池は、直射日光、火などの過度の熱にさらさない ●液もれしたり、性能や寿命を低下させるおそれがあります。		持ち運びするときは、アンテナをたたむ ●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどしてけがの原因となることがあります。
	乾電池は、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示どおり正しく入れる ●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	 禁止	湿気やほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。
			本機の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かない ●発火・感電の原因となったり、けがや破損のおそれがあります。

⚠ 注意

 禁止	窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。	 禁止	調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湯気が当たるような場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 ●必ずプラグを持って抜いてください。		電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、パソコン、モニターなど)に近づけない ●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。
	指定以外の乾電池や使用推奨期限を過ぎた乾電池は使用しない。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない ●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。		電源コードを熱器具に近づけない ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
			ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない ●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

⚠ 警告

- ・火中への投入、加熱、分解をしない
- ・取り外した乾電池を幼児に触らせない
- ・ショートさせない
- ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない

⚠ 注意

- ・⊕⊖の表示どおりに入れる
- ・指定以外の乾電池を入れない
- ・使用推奨期限内の乾電池を使用する
- ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない
- ・使い切った乾電池はすぐに取り出す
- ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

- 万一、液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。
- 万一、もれた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。
- 使用済みの乾電池を廃棄する場合、自治体の条例などで決まりがあるときにはそれに従って廃棄してください。

電源について

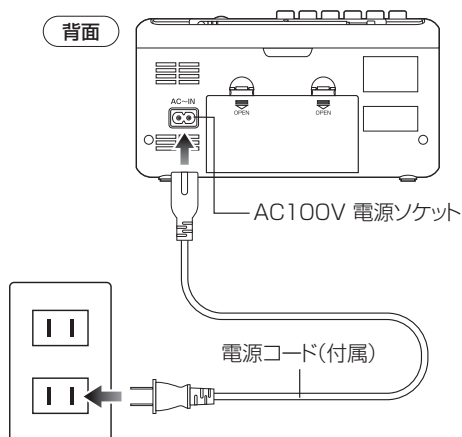


- 電源コードを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行ってください。
- 電源を入れる前に音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

- 乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。
- 本機を使用しないときは電源コードをコンセントから外してください。



家庭用コンセント(AC100V)

乾電池で使う場合

- アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。
※長時間使用するときや大切な録音をするときは、付属の電源コードを使用してください。

- 電池カバーのツメを押し下げながら手前に引き、電池カバーを開けます。
- 単2形乾電池×4本(別売)を⊕⊖の向きに注意しながら正しく入れます。

単2形乾電池×4本(別売)
コイルばねのあるほうが⊖です。
⊖側から先に入れてください。
- 電池カバーを元どおりに閉めます。

重要

付属の電源コードは本製品専用です。家庭用電源でご利用の際は、必ず付属の電源コードをお使いください。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使わないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

本機で使用できるカセットテープ

C-60(再生／録音時間が60分)以内のノーマルテープ(TypeI)をお使いください。



C-60以内のノーマルテープ(TypeI)

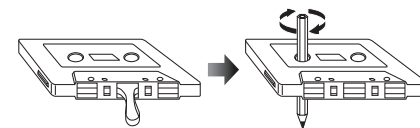


ハイポジションテープ(TypeII)
メタルテープ(TypeIV)
エンドレステープ
C-60を超えるノーマルテープ

- ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)、エンドレステープは使えません。
- ノーマルテープの場合でも、C-60を超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので使わないでください。

カセットテープを聴く前の準備

- テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。
- テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。



本機でカセットテープを操作するときのご注意

- 再生中に早送り／巻戻しをするときや、早送り／巻戻しから再生に戻るときなど、テープが動いているときは、必ず停止(取出し)ボタンでテープ動作をいったん停止させてから、次の操作を行ってください。テープのからまりや、故障、破損の原因となります。
- 再生／録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からまりや巻きつきの原因となります。

セミオートストップ機能について

本機にはセミオートストップ機能があり、録音／再生時にテープが終わりまで行くと自動的に止まり、押し込まれている操作ボタンも自動的に上がります。

- 早送り／巻戻しでは自動的に止まりません。そのまま放置すると故障の原因になりますので、必ず停止(取出し)ボタンで止めてください。

カセットテープ保管上のご注意

使用後は必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。本機内に長期間入れたままにすると、からまりや巻きつきによって、本機及びカセットテープの故障、破損の原因となります。

カセットテープへの録音機能と録音する前の準備

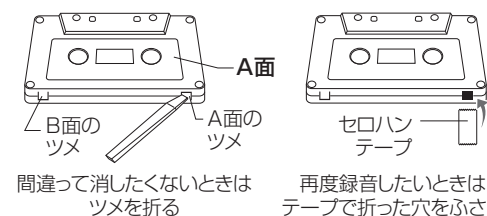
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ダイヤルを操作しても録音に影響がありません。
- 大切な録音をするときは、付属の電源コードのご使用をお薦めします。

録音する前の準備

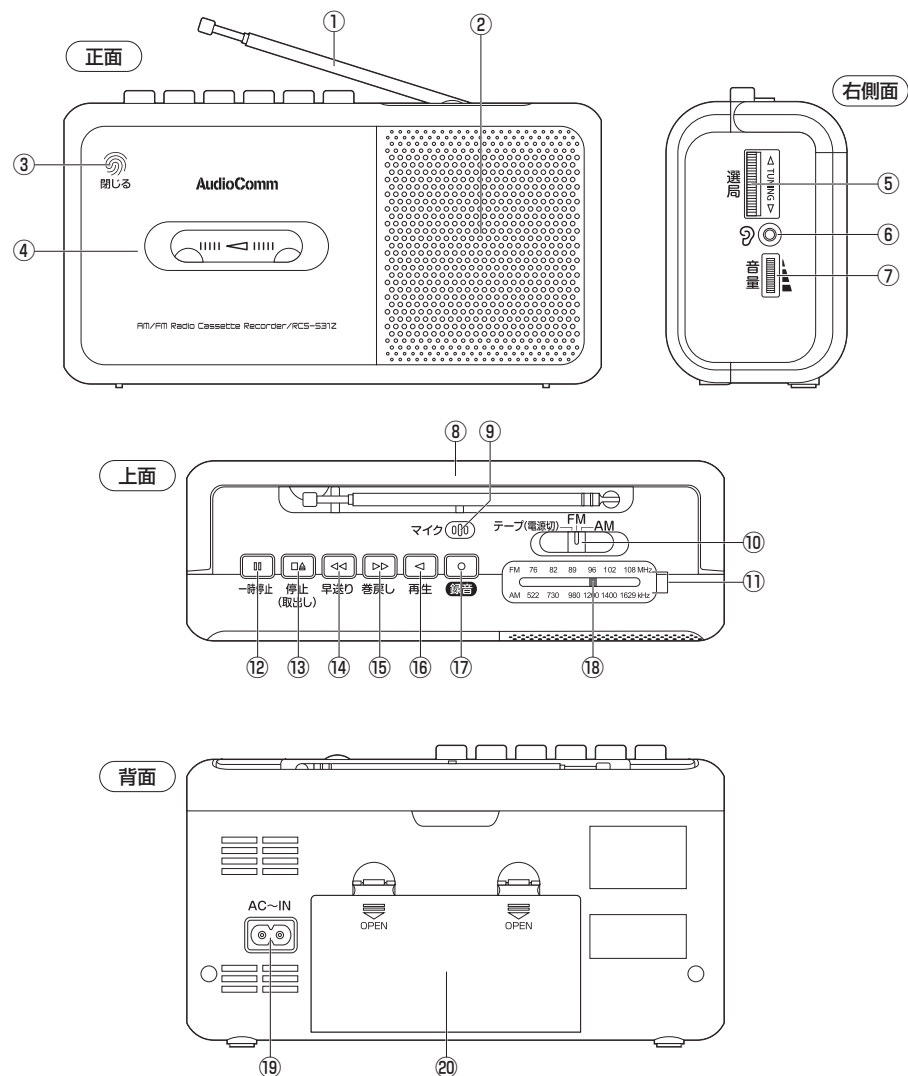
- テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は「カセットテープを聴く前の準備」を参照して鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
- ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押ししたりすると故障する場合がありますのでご注意ください。
- カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分(透明部)は録音ができません。録音前にこの部分を送っておいってください。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違えて大切な録音を消さずに済みます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にゼロハンテープなどを貼りつけてください。



各部の名称



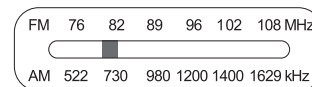
- | | | |
|-------------|-----------------|----------------|
| ① FMロッドアンテナ | ⑧ キャリーハンドル | ⑮ 巻戻しボタン |
| ② スピーカー | ⑨ 録音マイク | ⑯ 再生ボタン |
| ③ カセットドア閉部 | ⑩ ファンクション切換スイッチ | ⑰ 録音ボタン |
| ④ カセットドア | ⑪ 選局目盛り | ⑱ 選局指針 |
| ⑤ 選局ダイヤル | ⑫ 一時停止ボタン | ⑲ AC100V電源ソケット |
| ⑥ イヤホン端子 | ⑬ 停止(取出し)ボタン | ⑳ 電池カバー |
| ⑦ 音量ダイヤル | ⑭ 早送りボタン | |

ラジオを聴く

- 1** ファンクション切換スイッチを「FM」または「AM」に合わせます。
電源が入ります。



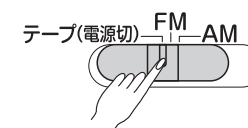
- 2** 選局ダイヤルを回して、聴きたい放送局を受信します。



- 3** 音量ダイヤルを回して、好みの音量に調整します。
音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



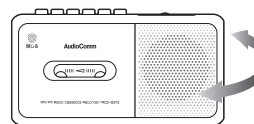
- 4** ラジオを切るときは、ファンクション切換スイッチを「テープ(電源切)」に合わせます。



受信状態を良くするには

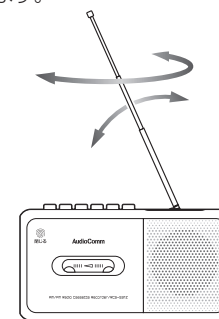
●AM放送の受信

本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●FM放送の受信

ロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節します。



ご注意

- テレビの近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機を離してご使用ください。
- 持ち運ぶときは、目をついたり危険ですので、必ずFMロッドアンテナをたたんでください。

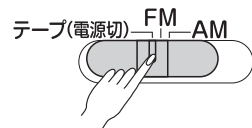
FM補完放送「ワイドFM」について

本機はFM周波数帯域が76～108MHzまであり、FM補完放送「ワイドFM」に対応しています。FM補完放送「ワイドFM」とは、AM放送局の放送区域において難聴対策や災害対策のために新たにFM放送用に割り当てられた90.1～94.9MHz周波数帯域を用いて補完的にAM番組を放送することです。FM補完放送「ワイドFM」の開始時期、放送局、使用周波数、聴取可能エリアなどは地域により異なります。詳細は各地域のラジオ局ホームページなどをご覧ください。

カセットテープを聴く

本機で再生できるカセットテープの種類やセミオートストップ機能、その他のヒントや注意事項は、P.5～6もあわせてご確認ください。

1 ファンクション切換スイッチが「テープ(電源切)」になっていることを確認します。

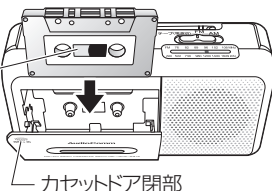


2 停止(取出し)ボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、再生する面を手前にして入れます。その後、カセットドア閉部を指で押して確実に閉めてください(テープは右から左へ走行します)。



C-60以内の
ノーマルテープ
(TypeI)



3 再生ボタンを押すと、再生が始まります。

ステレオ録音されたカセットテープも、モノラル再生となります。



4 音量ダイヤルを回して、好みの音量に調整します。

音量を上げすぎないでください。周囲の迷惑になるだけでなく、長時間続けて聴くと聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



5 停止／取出しボタンを押すと、再生が停止します。

カセットテープを取出し、ケースに入れて保管してください。



カセットテープ操作ボタンの基本機能

一時停止(⏸)	再生中に押すと、再生を一時停止します。もう一度押すと、再生を再開します。
停止(取出し)(⏹)	早送り・巻戻し・再生・録音の各動作を停止します。 停止中に押すとカセットドアが開きます。
早送り(<<)	早送りします。
巻戻し(>>)	巻戻しします。
再生(<)	再生します。

重要

- 動作中に他の動作へ移る際は、必ず停止(取出し)ボタンでテープを停止させてから行なってください。テープのからまりや、故障、破損の原因になります。
- 本機はセミオートストップ機能(録音／再生時にテープが終わりまで行くと自動的に停止する機能)がありますが、早送り／巻戻しでは自動的に止まりません(ボタンも戻りません)。故障の原因となりますので、必ず停止(取出し)ボタンで止めてください。

カセットテープに録音する

本機で録音できるカセットテープの種類や録音を始める前の準備、その他のヒントや注意事項は、P.5～6もあわせてご確認ください。

録音マイク(内蔵)を使って録音する場合

1 ファンクション切換スイッチが「テープ(電源切)」になっていることを確認します。

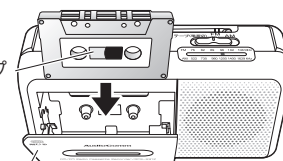


2 停止(取出し)ボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、録音する面を手前にして入れます。その後、カセットドア閉部を指で押して確実に閉めてください(テープは右から左へ走行します)。

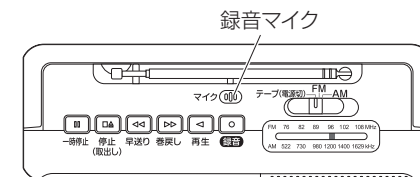


C-60以内の
ノーマルテープ
(TypeI)



3 録音ボタンを押すと、録音が始まります。

録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に押し込まれます。録音マイクをできるだけ音源に近づけてください。



4 録音を終えるときは、停止(取出し)ボタンを押します。

もう一度押すと、カセットドアが開きます。カセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。



ヒント

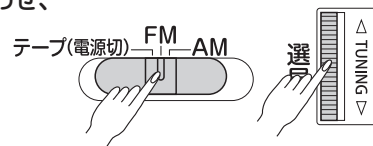
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ダイヤルを操作しても録音に影響がありません。
- 録音中に一時停止ボタンを押すと、録音を一時停止します。もう一度押すと、録音を再開します。
- 録音音声はモノラルとなります。
- 内部機構の動作音により、録音にノイズが生じることがあります。

カセットテープに録音する(つづき)

ラジオ放送を録音する場合

- 1 ファンクション切換スイッチを「FM」または「AM」に合わせ、録音したい放送局を受信します。

詳しくはP.8を参照し、操作してください。

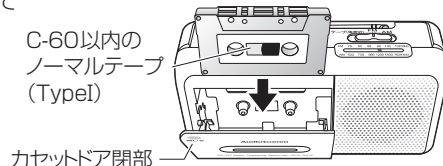


- 2 停止(取出し)ボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく入れます。

テープの見える側を上、録音する面を手前にして入れます。その後、カセットドア閉部を指で押して確実に閉めてください(テープは右から左へ走行します)。



C-60以内の
ノーマルテープ
(TypeI)



- 3 一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押して、録音一時停止状態にします。

録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に押し込まれます。



- 4 もう一度、一時停止ボタンを押すと録音が始まります。

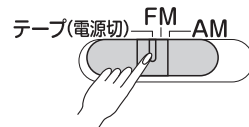


- 5 録音を終わるときは、停止(取出し)ボタンを押します。



- 6 使用後はファンクション切換スイッチを「テープ(電源切)」に合わせます。

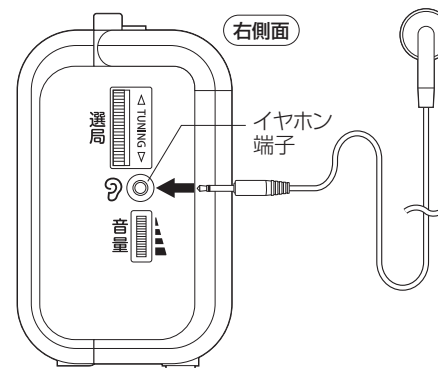
カセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。



ヒントとご注意

- 受信環境などによりノイズが入る場合があります。できるだけ良好な受信状態のもとで録音してください。
- 録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ダイヤルを操作しても録音に影響がありません。
- 録音中に一時停止ボタンを押すと、録音を一時停止します。もう一度押すと、録音を再開します。

イヤホンの使いかた



●本機の出力音声はモノラルになりますので、別売のφ3.5mmミニプラグイヤホン(モノラル)をお使いください。イヤホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。

●音量を上げすぎないようにご注意ください。

●家庭用電源でご使用时、イヤホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聞こえる「ブーン」という音)が耳障りになるときがあります。その場合は乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。

お手入れのしかた

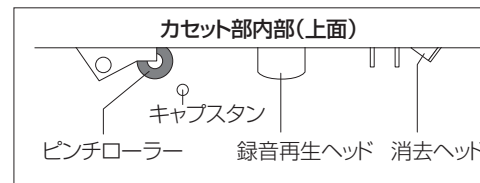
※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行ってください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残る、などの症状が出ます。また、テープが巻き込まれる原因にもなりますので、定期的にヘッド部を清掃してください。

清掃方法

カセットドアを開け、市販のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、次に使うときは、内部についたクリーナー液が十分に乾いてから、カセットテープを入れてください。



録音再生ヘッドの消磁を行なうには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

キャビネットの清掃

- キャビネットや操作ボタンなどが汚れたら、柔らかい布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後から拭きをしてください。
- 電源コードのプラグにほこりがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。
- シンナーやベンジン、アルコールなどは使わないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。



シンナー、ベンジン、アルコールは使用しないでください。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしいときは、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店、または、弊社修理ご相談センターにご連絡ください。

症 状		チェック項目
共通部	動作しない	電源コードがはずれて(ゆるんで)いませんか。
		乾電池が正しく入っていますか。
	音が出ない	乾電池が消耗していませんか。
		音量が最小になっていませんか。
カセット部	音が出ない	イヤホン端子にイヤホンが差し込まれていませんか。
		ファンクション切換スイッチが適切な位置になっていますか。
	カセットドアが閉まらない	カセットが逆向きではありませんか。
		操作ボタンを押していませんか。
	テープ走行が不安定 テープが走行しない	テープがたるんでいませんか。
		乾電池が消耗していませんか。
	テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	カセットドアがきちんと閉まっていますか。
		カセットが入っていますか。
	前の録音を完全に消去できない 録音した音がひずむ	ハイポジション(TypeⅡ)やメタルテープ(TypeⅣ)を使っていますか。
		消去ヘッドが汚れていませんか。
ラジオ部	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする、高音が出ない	ヘッドやピンチローラー、キャプスタンが汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
		乾電池が消耗していませんか。
	録音できない	ヘッドが汚れていませんか。
		誤消去防止用のツメが折れていませんか。
	ラジオは聴けるのに テープの音が出ない／小さい	乾電池が消耗していませんか。

主な仕様

■共通部		■ラジオ部	
電源	AC100V 50/60Hz	受信周波数	AM：530～1605kHz
	DC6V 単2形乾電池×4本(別売)		FM：76～108MHz(ワイドFM対応)
定格消費電力	6W	アンテナ	AM：内蔵フェライトバーアンテナ
定格出力	500mW(r.m.s)		FM：ロッドアンテナ
スピーカー	口径77mm×1個	■カセットデッキ部	
端子	φ3.5mmミニイヤホン端子 (モノラル音声出力)	トラック方式 2トラック1チャンネル	
外形寸法	幅226×高さ126×奥行76mm	■付属品	
質量	約855g(乾電池含まず)	専用電源コード、保証書付取扱説明書	

■乾電池での連続使用可能時間の目安			
スピーカー出力時	AM：約22時間	FM：約22時間	カセットテープ再生：約20時間
イヤホン使用時	AM：約39時間	FM：約39時間	カセットテープ再生：約32時間

※乾電池での連続使用可能時間の目安は、新品のアルカリ乾電池使用・音量中程度の場合の目安です。使用状況により異なります。
※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
※本書のイラストは実際の製品と一部異なる場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

- 調子が悪いときは
修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。
- 保証期間中は
保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間が過ぎた場合は
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。